

平成30年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者入試B日程 試験問題

公 法 系（憲法）

<解答上の注意>

1. この問題冊子は、表紙を含め2枚である。
2. 配点は、50点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、1枚が配布されている。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「公法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 司法試験用六法は貸与品なので、折り曲げや書込みをしないこと。なお、書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題】

一連の窃盗事件の捜査に当たっていた警察官らは、被疑者Xの行動確認等のために、Xが日常的に使用する自動車に対し、Xの承諾なく秘かにGPS発信器を取り付け、当該車両の位置情報を取得する、GPS技術を用いた車両の位置探索捜査（以下、「GPS捜査」という。）を実施した。GPS捜査は、相手方の承諾なく対象車両やこれを使用する者の所在位置をある程度正確に把握することができ、GPS発信器が対象車両に装着されている限り、継続的な尾行、追跡が困難な場合や、捜査対象者の所在位置の手がかりが全くなくなったような場合にも、ある程度即時にその位置情報が得ることができる。

このようなGPS捜査に含まれる憲法上の問題点について論じなさい。

《公法系問題 以上》

【出題意図】

問題

本問は、GPS捜査の合憲性という基本的な論点について問うことで、判例の理解を含めて、基礎的な知識の有無を測ることを目的としていた。